

平成30年9月21日（金）

「学びて時に之を習ふ。」

子曰く、「学びて時に之を習ふ。亦説(よろこ)ばしからずや。朋有り、遠方より来たる。亦樂しからずや。人知らずして慍(うら)みず、亦君子ならずや。」と。

現代語訳

孔子はおっしゃいました。

習ったことを機会があるごとに復習し身につけていくことは、なんと喜ばしいことでしょうか。

友人が遠方からわざわざ私のために訪ねてきてくれることは、なんと嬉しいことでしょうか。

他人が自分を認めてくれないからといって不平不満を言うことはありません。なんと徳のある人ではないでしょうか。

同じく論語の一節

子曰く、「吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従えども矩(のり)を踰えず(こえず)。」

現代語訳

先生(孔子)はおっしゃいました。「私は15歳のときに学問を志し始めた。30歳になったときに独り立ちをし、40歳になったときには惑わされることがなくなった。50歳のときに自分の天命を理解し、60歳のときによく人の意見に素直に耳を傾けられるようになった。そして70歳になって、自分の思うように行動をしても人の道はずすことはなくなった。」

何においても、学んで時に反復し、何度も何度も復習しながら一つ一つ身につけていく。15歳にして志しつつも、その自立は、30歳である。この志してから15年の月日が、基本となり、10年の反復期間を経て、迷わなくなるというのは、現代にも通ずることではないかと思えます。

野球も、商売も、学問も、演芸も、すべておおまかにいうと、この流れではないのかなと考えるところです。

60歳間近になって、耳従うような態度を身につけることができたかはまだ分かりませんが。